

会議録（要点録）

会 議 名		第2回 第4次八王子市教育振興基本計画策定検討会
日 時		令和6年5月31日(金) 午後7時00分～8時00分
場 所		八王子市役所 本庁舎 801会議室
出席者氏名	参 加 者	◎川島弘嗣、○大宝院清孝、増田正弘、三浦壮次、中村八重、佐藤ますみ、 櫻井励造、矢ヶ崎由香、小室裕美 ◎:座長 ○:副座長
	教育委員会事務局職員	長井優治 教育総務課長、狩野貴紀 統括指導主事、志村亮介 統括指導主事、 福島裕子 統括指導主事、田島裕子 生涯学習政策課長
	事 務 局	三枝信博 教育総務課主査
欠 席 者 氏 名		小林七海
次 第		1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について 3 その他 4 閉会
公開・非公開の別		公開
傍 聴 人 数		なし
配 付 資 料 名		・次第 ・資料1-(1) 第4次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について ・資料1-(2) 第3次計画と第4次計画の対比 ・資料1-(3) 第3次計画と第4次計画との施策体系変更点 ・[参考資料] 第3次八王子市教育振興基本計画の成果と課題等について

	会議の内容
	1 開会 2 議題 第4次八王子市教育振興基本計画の基本的な方向について
事務局 座長	「資料1-(1)～(3)」について説明 「基本理念」、「今後 10 年間を通じてめざす教育の姿」、「施策体系」の順番で進めていく。まずは、「基本理念」について御意見をいただきたい。
参加者	10年後の社会や世界は、予測が困難なため描き出すことが難しい。リカレント教育は、転職のためにやるのではなく自分自身のみちを見出し、そのみちを極めていくことにあって必要なことである。変化に対応するよりも、変化を楽しむような意味を込めて未来に挑戦する力なのではないかと感じている。基本理念はこの形で良いと思う。
座長	八王子市のブランドメッセージのなかにも「あなたのまち」とあり、第3次計画の基本理念のなかにも「自分のみち」と示されていることから、人に焦点の当たった基本理念になっていると思う。第4次計画の基本理念にある「それぞれ」という表現は、「一人ひとり」という表現に変えたほうが良いと思う。
副座長	「みち」という言葉は表現としては良いと思うが、一本道を歩いているイメージがある。第3次計画のなかに取り入れられていた「時には別のみちも選べるように」というメッセージは、大切なメッセージだと感じる。
座長 参加者	次に、「今後 10 年間を通じてめざす教育の姿」について、御意見をいただきたい。 「自分のみち」、「それぞれのみち」を大切にすることは必要だと思うが、その「みち」を歩んでいくためにも「他者のみち」を認める力が大切だ。そのためにも、視野を広げることは子どもたちにとって必要なことであり、大切なことだと思う。子どもたちに、違いを認め合いながら生きてほしいと考えると、教育の環境のなかでも他者を認め合えるようにすることが大事だと感じる。
参加者	現在の子どものたちの現状を見ると、隣の人との違いや、目立つことをおそれているように見られる。ネット空間で自由に言えていたものが、現実の場では意見を言うことを差し控えてしまい、認め合うことや違いがあるからこそ面白い、という考え方は現在の時代で難しい部分でもあると思うが、上手くこれらを組み入ることで生きる力につながると思う。 めざす教育の姿「3 生涯学びあい、活躍できる機会の充実」について、第3次計画での「いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実」とは名称変更され、「活躍」と示されているがどの部分から「活躍」を取り入れたのか。
事務局	生涯学習の計画において、大切にしているキーワードは「つながる」である。人と人がつながる、人と地域がつながる、地域と地域がつながる、あらゆる場面で「つながる」ことを想定している。人前に立ち、発表するということだけが活躍という意味ではなく、自分で学んだことを人に教えたり、自分のなかで成長を感じられることも含めて「活躍」と表現している。

参加者	活躍というと率先的に人前に立って発表するイメージがある。第3次計画「3 いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実」から第4次計画案「3 生涯学びあい、活躍できる機会の充実」に名称変更することは、少し隔たりがあるのではないかと思います。
参加者	第4次計画案「3 生涯学びあい、活躍できる機会の充実」についてだが、学びあうというのはどのような部分に焦点をあてているのか具体的なイメージが浮かびにくいので教えていただきたい。
事務局 参加者	多世代に渡り、自分が学ぶ、それから人に教える、これらの循環をイメージしている。 子どもだけでなく、大人もイメージした生涯学習だと思うが、施策としては少し薄いのではないだろうか。施策に反映するのは、難しい部分ではあると思うが、もう少し施策の部分に取り入れると具体化されて良いと思う。今後5年間に取り組む施策「27 誰もが学べる環境の整備」、「28 学びと実践の推進」のみだと伝わりにくいのではないか。内容的には大きいものなのかもしれないが、もう少し施策を細分化ができるとより分かりやすいものになるのではないかと感じる。
座長	生涯学習とは、人生を豊かにし、みんなで取り組むことが基本で、生涯学習の計画テーマが「つながり」であることから、あえてこの言葉を選んだのであらうと感じている。「人生を豊かにする」ということが伝わる文言を取り入れると良いと思う。今回の第4次計画では「協働」と、生涯学習の部分では「つながり」という文言を取り入れていることでリンクしているように感じられるが、「協働」という言葉を使うことで、やらされていると捉えてしまい、地域に投げられている感を感じてしまう人がいるのではないだろうか。しかし、協働をしていかなければ前には進めないのも、匙加減は難しいところではあるが、「協働」という表現は、あまり意味合いが強くなりすぎない方が良いと思う。
座長 参加者	最後に、「施策体系」について、御意見をいただきたい。 各施策展開の方向にある今後5年間に取り組む施策について、優先順位または順序性など関係があるか。
事務局 参加者	第3次計画を基にしており、優先順位ではない。 施策展開の方向「4 未来を切り拓く力を育む教育の推進」の今後5年間に取り組む施策の「13 グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」、「14 主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」の見せ方とすると、「14」が先のほうが良いと思う。主体的に社会に参画する力がこれから先に子ども達には必要な力であって、必ずしもそれぞれの子どもたちが、グローバルに活躍することを望むかと言うとそうではないように思う。そう考えると、「14」が先の方が良いのではないかと思います。
参加者	施策展開の方向「3 児童・生徒に応じた支援の充実」は大切なことであるが、それ以上に、一見問題の無い子どもたちを豊かに育てることが重要であると思う。施策展開の方向「2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」の施策が少ないように感じる。学校という場所は子どもたちが出会う最初の社会であるので、社会のなかで生きていく力を身に付けさせるなど、もう少し施策を取り入れても良いと思う。

参加者	第3次計画では今後5年間に取り組む施策「いじめ防止対策の推進」が、施策展開の方向「豊かな心の育成」に入っていたが、第4次計画では施策展開の方向「3 児童・生徒に応じた支援の充実」のなかに入っている。これでは、いじめ防止対策が、個々の支援というイメージになってしまい、豊かな心を育成する中で、いじめが起きていない状態であっても、「いじめはいけない」、「人を思いやる心が必要」という心の育成が必要だと思う。この内容は施策展開の方向「3 自分を大切に、他者を思いやる心の育成」のなかに入っているかもしれないが、はっきりとしないように思う。「いじめ防止対策の推進」の施策は、いじめが起きてしまう前に豊かな心の育成として、施策展開の方向「2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」のなかの施策とした方が良いと思う。
参加者	施策展開の方向「3 児童・生徒に応じた支援の充実」は大切なことだが、今は、児童・生徒だけではなく、その背景を読み解くことが大切である。保護者や、その児童・生徒を取り巻く環境をどのように支援し、充実させていくかということが大切である。
副座長	「いじめ防止対策の推進」の施策は、施策展開の方向「2 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」のなかの施策とした方が良いと思う。施策体系案では、いじめが起きた後の対応という視点でのいじめ対策に見えてしまうので、未然防止の段階での取組が本当の意味でのいじめ防止であると思う。いじめ防止が目的と言うより、豊かな心を育てることが結果としていじめ防止につながっていくと感じている。
参加者	第3次計画の施策展開の方向「9 登校支援の充実」が第4次計画案では「9 不登校児童・生徒への支援の充実」に名称変更している。不登校を明示した理由は何か。不登校だけでなく、学校には来ているが時々教室に来てほかの時間は別室で過ごす子どもたちがいるので、「登校支援」でも良いのではないか。
事務局	文部科学省のCOCOLOプランでは、学校での登校復帰をすることだけではなく、社会的自立に向けた取組が必要とされている。「登校支援」というと学校に登校することだけが目的のようなイメージになると考えた。ここでは、不登校児童・生徒をどのように支援をしていくのか、社会的自立に向けた一步を踏み出そうとしている子どもたちへの支援の取組を示すために「不登校児童・生徒への支援の充実」と名称変更をした。
参加者	施策展開の方向「12 幼児期からの教育の推進」について具体的な内容を教えていただきたい。
事務局	本市では、保・幼・少連携を重視している。例えば、特別支援学級の子どもたちが使用する教科書を作成するにあたり、保育園の時の特性なども見ながら教科書を選び、そのほか、マイ・ファイルを活用し、子どもの情報をつなげていくことも実施している。
参加者	それならば、施策名は「幼児期からの教育の推進」ではなく、「保・幼・小連携」などの方が分かりやすいと感じる。いわゆる「つながる」ということが分かりやすいような文言にした方が良いと思う。
参加者	第4次計画案の施策展開の方向「23 学校ICT環境の充実」について、学校内のICT環境の充実だけでなく、今後インターネットやSNSは子どもたちにとっては切っても切れな

参加者	い問題であると思う。情報の受け取り方や、SNSとの付き合い方、ICTのスキルを伸ばしていかなければグローバルな社会のなかで生き残ることは難しいと思う。学校のICT環境の充実だけではなく、包括的にICTに関して取り組んでいくことを施策として設けられないか。情報リテラシーも含めて、もう少し充実させることはできないだろうか。 第4次計画案の施策方向の展開「32 歴史文化の保存・活用」について、第3次計画では「歴史文化の保存・継承と活用」と示されているが、第4次計画では「継承」が除かれた計画案となっている。その理由は何か。
事務局 座長	「保存」のなかに、継承という意味が込められている。 グローバルの視点も大切であるが、まずは、主体的に社会に参画する方が先だと思うので今後5年後に取り組む施策「13グローバルに活躍できる多様な力を育成する教育の推進」・「14主体的に社会に参画する力を育成する教育の推進」については、順番を入れ替えたほうが良いと思う。ICT環境については、先生方のスキルアップも含まれていると思うがこれから先の5年間で据えると、AIを活用するようになり危機管理能力を持つことが必要になってくると思う。このことについて、児童・生徒だけではなく、大人も同様であることから、生涯学習のなかにもICTに関する施策を取り入れることができないか。 第3次計画の今後5年間に取り組む施策「31 読書のまち八王子の推進」について、第4次計画は令和6年度が最終年度だと思うが、令和7年度からは無くなるということか。
事務局 参加者 参加者	生涯学習の計画と読書の計画とで一体化する予定だ。 「多様性の尊重」のような視点を、もう少しはっきりと出すことはできないか。 施策展開の方向「15 持続可能な部活動の推進」について、具体的な内容を教えてほしい。
事務局	中学校の部活動は、ここ20年間で、子どもたちの数は減少しているのに、部活動の開設数は大きく減っていない状況である。 中学校の部活動改革として、これから先の子どもたちの減少や教員の働き方改革なども含め、部活動改革として部活動数を減らしていく予定だ。改革期間として、令和6・7年度の2年間をかけて実施する。5年後には、学校が無理なく部活動を運営できる状態になっていることを見据えて「持続可能」という表現をした。
座長 事務局	3 その他 次回の開催予定を事務局から願います。 次回の日程は7月26日(金)、場所は市役所本庁舎8階 801 会議室。時間は午後7時からを予定している。 次回の開催通知、会議資料については、後日、電子メールにてお送りする。
座長	では、本日はこれにて閉会とする。 4 閉会